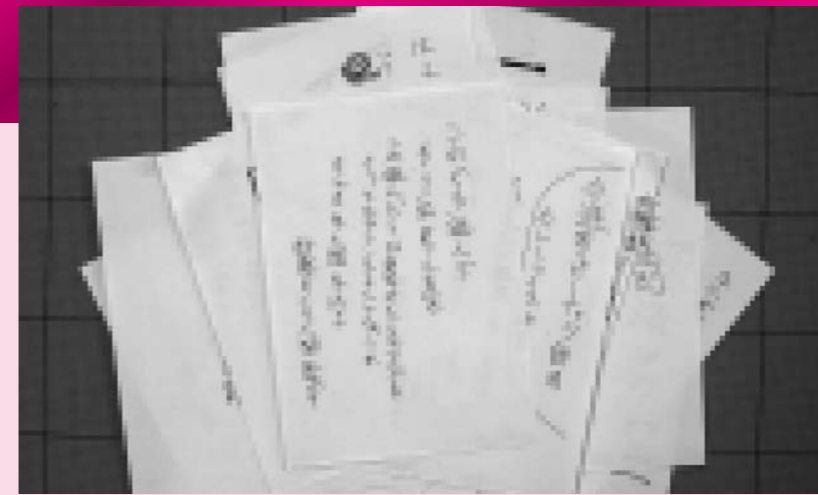


あなたはこの現実をどのように受け止めますか



昨年末、悪質な差別ピラ事件が発生しました。私たちが暮らすこのまちで起こった事件。自分に書かれたピラとしたらどうでしょうか。被害者の思いに心をめぐらし、決して他人事ではなく、この事実と向き合いたい。そして人権のまちであるために共に考え合っていきたいと思います。

事件の経緯

昨年の12月11日、三田市内のある公共施設の玄関前に置かれていた差別ピラが発見されました。それはB5版の用紙18枚にわたって書かれたもので、それらを束ね、上に重しを乗せてありました。

～文面の内容(抜粋)～

「部落問題についてちょっと書いてみました(笑)」
「部落のアホ これ読んだらかしこなるわ」「引越せダボ」「死ね」
「部落ノクセニ デカイ顔シテ町歩クナコノドアホー」
「同和の肩書 わし等も欲しいわ(笑)」
「部落 同和 在日帰れ」
「ずっと差別の中で生きる」
……等

同和行政に対する偏見

差別ピラの内容から、同和行政に対するねたみ意識が感じられます。昨今の報道により大阪・京都・奈良等における同和行政の一部に不正があったことが明らかになりました。このような不正に対しては、毅然とした態度で正していかなければなりません。しかし、すべての同和行政や被差別地区の人たちが不正をしているかのような誤った偏見も広がっているのではないのでしょうか。一部の問題を全体の問題と捉える。これがまさに部落差別の特徴の一つです。

差別ピラの重大性

このほか目や耳の不自由な人に対する差別用語なども書かれていました。このように部落差別をはじめ在日外国人、障がいのある人への差別感情をむき出しにした差別ピラ。いまだにこのような差別行為を行う人がいることを、同じ人間として許すことができません。

生き方の課題として

このピラを書いた人は、何かしんどいことがあったのでしょうか。こんなことをして自分の気持ちがすこし楽になったのでしょうか。よけいにしんどくなったのではないのでしょうか。しんどいことがあったら声をあげてください。きっと周りにはあなたの気持ちを受け止めてくれる人がいるはずですよ。

差別行為は犯罪行為

今から約6年ほど前に東京で「連続・大量差別ハガキ事件」が起こりました。その事件とは、実行犯Aが、約1年半の間に、東京を中心にしながら全国に400通を超える差別ハガキや手紙を送りつけるなど、悪質な行為を執拗に繰り返したというものです。その内容は被差別地区住民や、障がいのある人、在日外国人を誹謗中傷するものでした。平成16年10月に、Aは「脅迫罪」と「名誉毀損」で警察に逮捕・起訴され、平成17年7月、東京地裁で懲役2年の実刑判決が出されました。その後、Aは刑務所に服役しました。この事例からも分かるように、差別行為は明らかに犯罪行為なのです。

人がいるはずですよ。しんどい時は誰だってあります。苦しんで泣きたい時もあります。でも、どんなことがあったとしても、人を差別しない生き方は、人間が人間であるための証ではないのでしょうか。人を差別することではなく、日ごろの不満やストレスを発散することの出来ない、そんな生き方ではなく、人を大事にし合う、よりよい生き方をめざして、共につながっていきましょう。

近くの人と語り合ってみてください

あなたは、今、この事実についてどのように感じていますか？
このまちに住むすべての人が、差別される人にも、する人にもならないために、共に語り合いたいです。

1. あなたはこの差別事件についてどう思いますか。
～もし、自分に書かれたピラとしたら、どんな気持ちになるでしょうか？～
2. なぜ、このような事件が起きたのだと考えますか。
～あなた自身に、また周りの暮らしの中に、差別につながる芽はありませんか？～
3. このような事件が起きないために、自分には何ができてでしょうか。
～子どもたちや周りの人に何を伝えますか？～

私はこう思う

3月7日三田市同和教育研究協議会 理事会にて「差別ピラ事件」についての報告があり、その後グループに分かれて話し合いました。(アンケートから抜粋)

- ・本当にまだこういう差別が実際にあるということを知って、情けなく悲しい気持ちになりました。
- ・絶対に許せない気持ちでいっぱいです。
- ・心の寂しい人間のすることだと思う、残念という思い。
- ・人として許せない行為。私たち大人は、差別解消に本気で取り組まなければいけないと思います。
- ・どれほどのエネルギーがあればここまで書けるのかと思う。何がここまで、この人をイラつかせているのだろう。
- ・怒り・悔しさ・無力感などいろいろな思いが渦巻いています。
- ・こんなに自分の思いがある人なんですね、だけど、こんな出し方はたくさんの人を傷つけます。もし、子どもの時にこんな文書で傷つけられたら、どんな思いになるのでしょうか？
- ・私はこの人と一度と言わず、何度でもお話をしたいです。
- ・何かしんどいことがあるのでしょうか？ストレスがたまっているのでしょうか？「いいえ」何があったと

- しても、こんな文章を書き、人の心をキズつけることはゆるせないことです。
- ・自分の問題だったら…自分のことだったら…と、自分の胸に問うてみて欲しい。このような差別をする人が自分のした事を反省し、差別をしない許さない人になってくれることを願っています。
- ・この人の周りには、この人のことを大切に思ってくれる人がいないのでしょうか。偏見だけを植え付ける人ばかりだったのでしょか。あまりにもさみしい人生だと思います。
- ・私は差別された人の立場になって、人の気持ちのわかる人になります。
- ・何故このようなことをしたのか、理解できません。絶対に許すこともできません。こんな風にしか自分の思いを出せないなんて…
- ・自分の子どもが、兄弟が、差別を受けたらどんな思いがしますか？自分のこととして自分がしたことを振り返ってみて欲しい。

「人を差別するまずしい心」に「人間としてのあたたかい心」を取り戻し、人と人が豊かにつながる。これが人権の営みです。正しいことを「正しい」と感じ、おかしいことを「おかしい」ときっぱり言える。そして「しんどい」という人がいれば、「どうしたの？」と声をかけ、相手の立場や思いに心が寄せられる。そんな思いやりのある人の輪が広がれば、差別は必ずなくせます。そんな一人一人の生き方が「人権のまち三田」を創るのです。

人権の取り組みは、差別されている人のためではなく、私とそしてみんなの人権を守るための取り組みです。人間としてのよりよい生き方を育み、誰もが安心して暮らせる人権尊重の空気を、私たちのまち三田いっばいに広げましょう。